

対策 豊かな農業・農村を守るためには

豊かな農業・農村を守るためには、実際に農作業などに携わる「担い手」の確保と、農用地や水路などの「地域資源」の管理を両立することが重要です。

担い手の確保

地域農業の担い手の確保のため、市では、農林水産省が定める制度に基づいた「認定農業者」(※1)や「認定新規就農者」(※2)を認定し支援しているほか、集落単位で共同で農業生産に取り組む「集落営農組織」の結成や法人化などについてもサポートを行っています。

これらの農業者や営農組織は、地域における担い手の中心的な存在として、市内各地で活躍しています。

- ※1 認定農業者=市長が認定した、経営改善に取り組む農業者
- ※2 認定新規就農者=市長が認定した、新たに営農しようとする、または経営開始から5年以内の農業者

しかし、担い手の高齢化や後継者不足などの問題は深刻で、今後、農業を続けられなくなる人がますます増えることが予想されます。そのため、農業をリタイアした人の農地を公的機関である「農地中間管理機構」を通じて担い手に貸し出すことが、地域農業を将来にわたって継続していく上で重要となっています。

この貸し出しは、農地に対する担い手確保はもちろん、農地の集約による作物生産コストの削減や、災害防止などの多様な機能の維持にもつながります。



地域資源の管理

農用地や水路、農道などの「地域資源」は、適切に管理することで、美しい景観の保持、文化の伝承、洪水や土砂災害の防止などといった、農業・農村の「多面的機能」を発揮します。

これまで、多くの地域では、耕作者が各々の農地周りにおいて地域資源の管理を行うことで多面的機能を維持してきました。

一方で、農地中間管理機構を通じて担い手への農地集積が進んだ地域では、農地を持ちながら農業を

しない人が増え、農業・農村への関心が低下したことで、地域資源を適切に管理できなくなることが新たな課題となっています。

そこで、農地周辺の草刈りや水路の泥上げなどの管理活動について、地域全体で行う体制の構築が求められています。

これらの地域全体で地域資源を守る活動を行う団体は、「多面的機能支払交付金事業」による公的支援を受けることができます。



農林水産課
みやもと 宮本主査(写真左)
ふじた 藤田主査(写真右)

農業・農村を守るため、私たちもお手伝いします！

農林水産課では、地域農業・農村を守る体制づくりを支援しています。

担い手や地域資源管理の状況は各地で異なりますが、今後も地域を守っていくためには、地域全体で定期的に話し合い、課題を共有し、

改善していく体制づくりが重要です。

お住まいの地域でも、ぜひこうした体制づくりに取り組んでいただき、お困りのことがあればいつでも農林水産課へご相談ください。

みんなで考え、みんなで守る

特集 農業・農村の未来

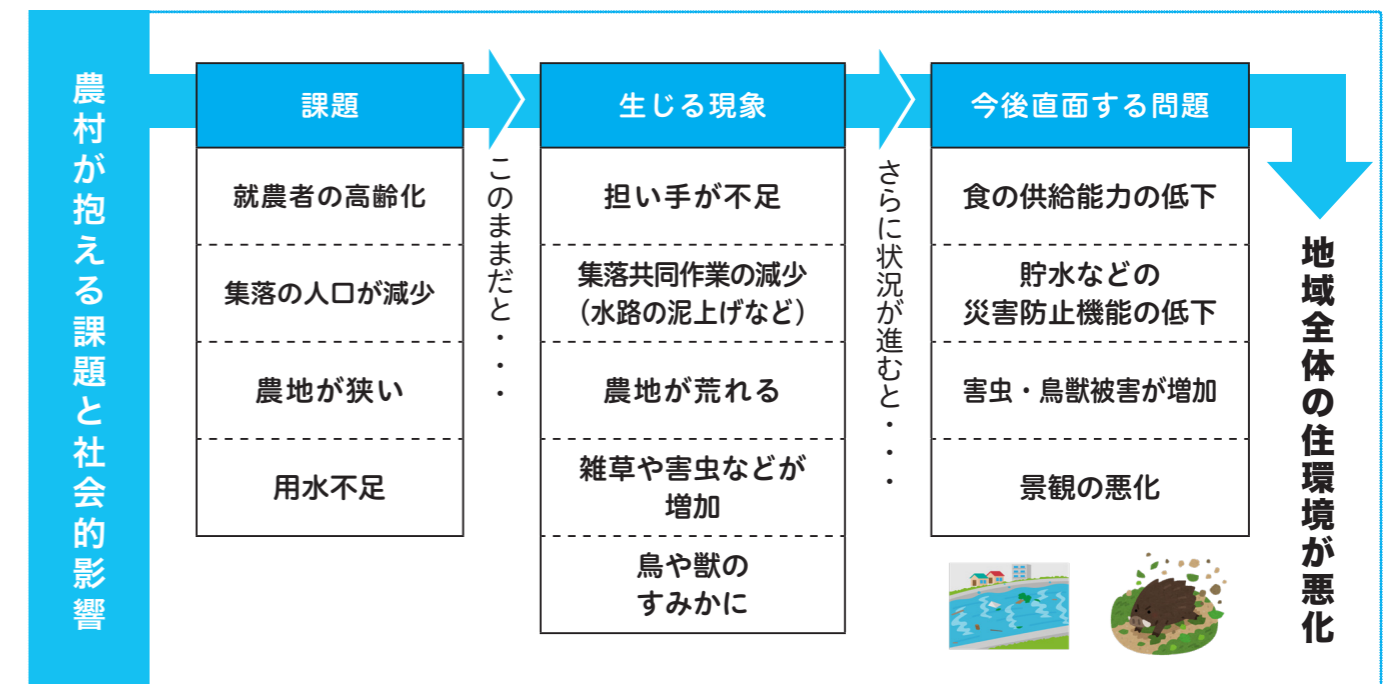
■問い合わせ 農林水産課 ☎ 64・6022

農業の課題は、社会全体の課題

「食を活かしたまちづくり」を推進する小浜市において、その食を支えているのは、市内各地の美しい農山漁村です。その中でも、農村の基盤となるのは「農地」ですが、適正に管理された農地は、単に「食料を生産する場」以外にも、さまざまな機能を併せ持っています。

例えば、雨水を一時的に農地に貯めることで、川の水位の上昇を緩やかにして、下流における市街地の浸水防止に役立つという機能があります。つまり、農地が荒れたり農業が衰退したりすることは、農村のみならず、社会全体に影響を及ぼす問題です。

このため、農業や農村のあり方について、農業者だけでなく、地域全体、社会全体で考え、守っていくことが重要になってきます。



case2. 田鳥地域

担い手 … 複合タイプ

主に個人で耕作していますが、耕作できなくなった農地は地元住民でつくる任意組織「たがらす我袖倶楽部」が作業を受託し、農地を守っています。

同団体は、海に面した風光明媚な「棚田」の維持管理を行っているほか、耕作以外にイベントなども企画し、内外に魅力をPRしています。



▲風光明媚な景色を生かして、キャンドルイベントなど観光資源としても活用している

地域資源管理 … 複合タイプ

農地の草刈りなどは個人で行っていますが、一部の長大な法面など共有性の高い部分については、地元団体の「田鳥西部農地保全組合」が保全管理を行っています。

また、用水の取水源である貯水タンクについて、地域ぐるみで管理を行っています。



▲環境保全のため、組合員らが法面に防草シートを張る様子



たがらす我袖倶楽部
やましたよしとく
山下善嗣さん
(63歳・田鳥)

市外の担い手を呼び込む仕組みが必要

棚田はその景観から観光地としても好評ですが、地域では営農をやめる人が年々増加しており、景観の保持を含めた地域資源管理や、担い手の確保が今後の課題となっています。

これらの課題の解決のためには、地

元の担い手の育成だけではなく、市外から担い手を呼び込む仕組みの必要性を感じています。例えば、民宿と協力して、都市部の人々が農繁期に民宿に泊まり営農を行うなどといった、受け入れ体制の構築も進めていきたいです。

事例紹介

市内の担い手や地域資源管理の状況

市内の農業における担い手の状況、および地域資源管理の状況は、地域によってさまざまですが、おおむね次の3種類に区分できます。

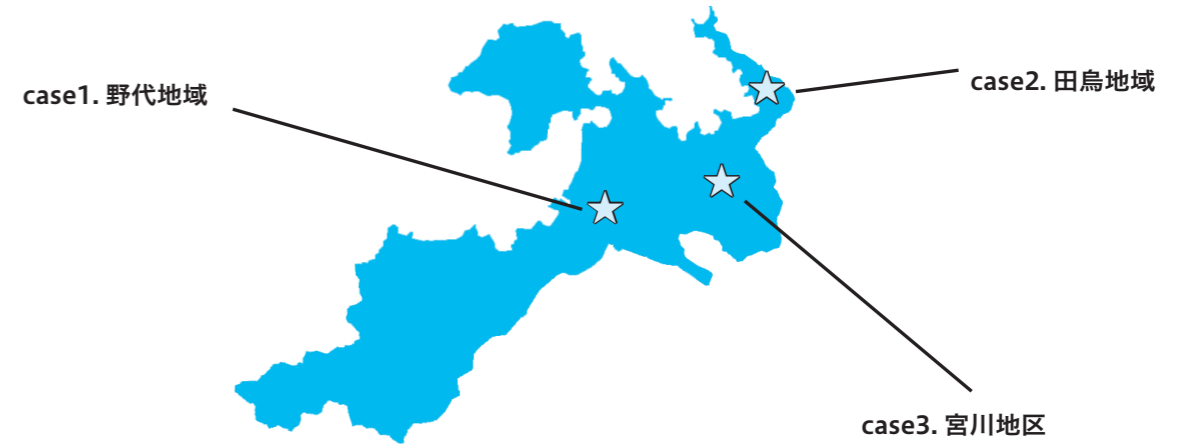
担い手の状況

- ①個人（個別の法人）が営農する「個人タイプ」
- ②集落や地域が共同で行う「集落営農タイプ」
- ③基本的には個人で行うが、一部の農作業などを共同で行う「複合タイプ」

地域資源管理の状況

- ①個人（個別の法人）が管理する「個人タイプ」
- ②集落や地域が共同で行う「地域管理タイプ」
- ③基本的には個人で行うが、個人では難しい一部の管理を共同で行う「複合タイプ」

●ここからは、市内各地で行われている農業の事例と、それぞれの状況を紹介します。



case3. 宮川地区

担い手 … 集落営農タイプ

生産コストを削減し、効率的な農業を実現させるため、平成27年に地域の4つの営農組織が統合し「(株)若狭の恵」を設立しました。

農地中間管理事業を活用し、個人農家との農地の利用調整や農作業受託などを行っています。



▲生産から加工、販売まで一貫して手掛けることで、作物の付加価値向上につなげる

地域資源管理 … 地域管理タイプ

営農支援団体「(一社)宮川グリーンネットワーク」が、地域の非農家を中心に約100人からなる「営農サポーター」を構成し、若狭の恵からの依頼に応じて、農地周りの草刈りを行うなど、地域全体で若狭の恵の営農作業をサポートしています。



▲営農サポーターには地元小学生や老人クラブ会員も登録。地域全体で農業を支える



若狭の恵
まきのやすのぶ
前野恭慶代表取締役
(57歳・加茂)

宮川グリーンネットワーク
みやがわのりネットワ
く
たけなかたし
竹中忠副代表理事
(61歳・加茂)

集落営農のさらに一歩先へ

宮川地区では、平成11年から将来にわたる地域農業の継続を見据えた集落営農に取り組んでおり、現在の若狭の恵にもその長年のノウハウが継承されています。

今後も遊休農地の増加が予想さ

れる中、その活用が課題となりますが、果樹園への転換や観光農園の経営、農業体験の受け入れなど、集落営農からさらに一歩踏み込んださまざまな事業に取り組むことで解決していきたいと考えています。

case1. 野代地域

担い手 … 個人タイプ

個人による営農が地域農業の中心。一部の大型農業用機械は任意組織を作り共同利用しています。

「集落の農地は集落の農家で守る」という意識が高く、将来的には同一作物を栽培する農地の集約（団地化）などに取り組む予定です。



▲トラクターなどの機械の管理を任意組織に委託。耕作は自身や派遣オペレーターが行う

地域資源管理 … 複合タイプ

農地や周辺区画の草刈りなど、多くの農作業・資源管理は個人で行っています。

幹線道路沿いの農地や幹線水路については、地域ぐるみで草刈りや泥上げなどのほか、住民参加による景観植物の植栽などを行っています。



▲個人が所有する幹線道路沿いの農地を利用して、住民らがマリーゴールドを植栽する様子



認定農業者
おかたまさひさ
岡田昌樹さん
(67歳・野代)

野代農地・水・環境保全隊
なかいしむね
仲井宗男代表
(68歳・野代)

10年先の地域農業を考える

今は個人による営農で耕作や地域資源の管理ができていますが、地域の農業者の多くは高齢で、「10年後、20年後に地域の農業が継続できるだろうか」といった不安の声も聞こえてきます。

野代では、こうした声を受けて、地域全体の将来を見据えた話し合いを進めるため、農家組合内に新たな組織をつくり、今後の方針などについて検討を始めたところだ。